

県 外 派 遣 報 告 書

大会名	令和元年度関東高校男子バスケットボール大会	開催地	山梨県
報告者名 (所属連盟)	武井晋平、松本祐大、平山智章	派遣期間	令和元年6月1日～2日
参加者 順不同 敬称略	<p>本部：渡邊整（関東審判長）・北島寛臣（関東副審判長） 指名：梶崇司（栃木）・眞榮喜工（埼玉）・東條輝正（東京） 茨城県：一色渉・中山克則・二宮隆二・薄井基 栃木県：渡邊諭・武井晋平・松本祐大・平山智章 群馬県：石崎公一・穂川苑子・阿久沢尚夫・塚越洋平 埼玉県：安西郷史・山岸大輔・小原宏太・箱石拓也 千葉県：中島弘幸・岡崎武史・山崎敬次郎・相木康岳 東京都：白川義一・稲田翔人・濱雄介・山崎昭一 神奈川県：加納康平・廣瀬俊昭・山岡忠・本間竜也 山梨県審判員</p>		
<p>【審判会議内容】</p> <p>○渡邊 整 氏（関東ブロック長） ・インテグリティ（振る舞いに対するTF）について コーチ：選手に対する暴力的行為および暴言→TF（C） ・人権、人格、存在を否定する言葉 ・自尊心を傷つける言葉 ・コミュニケーションの取りかたについて→不要なTFをなくすためにコミュニケーション能力を高める 感情的にならずにTFを宣する⇒判定の根拠とPOCを明確にする（short & clear） ・HCにofficial warning 「先ほどの言葉（振る舞い）はインテグリティに該当します、次はTFになりますので気を付けて（注意して）ください」 ※受け入れてもらえない場合→TF（リスペクトフォアザゲーム） しかし、official warningが全てではない。誰が見ても・どこから聞いてもふさわしくない行為に対してTFを宣する</p> <p>○眞榮喜 工 氏 3POメカニクスについて ・3POメカニクスは誰か一人欠けても成り立たない→それぞれが約束を守って運営していく ⇒トレイル・センター・リードがそれぞれの役割を理解し、どのゲームで誰とクルーになっても同じメカニクスでゲームを運営できるように共通認識を持ち、理解を深めていくことが重要である。 ・3POを行ううえで「～をしろ」と言われたからするのではなく、その約束事の意図を理解することが最も重要であるとお話頂きました。</p> <p>○梶 崇司 氏 新ルールについて ・24秒ルールおよびそれに付随するスローインの選択（4Q残り2分）、TF、ドリブル、プリベンティブシグナルについてそれぞれお話頂きました。 ※新ルールについてはルールブックおよびガイドラインを参照。</p> <p>○東條 輝正 氏 ガイドラインの確認 ・ファウル→クリーンバスケット・クリーンザゲームを目指す ⇒マージナルorイリーガルorノーファウルの判断について、常に検証する ・スクリーン→イリーガルスクリンとは？（ガイドライン1）～3） ⇒特に2）視野の外からのスクリーンの判定が難しい。 ・プロテクトシューター→特に足元に入り込むケースに関しては注意が必要（怪我につながる） ⇒オフェンス側のファウルの場合は、ショット前なのか後なのかの確認も必須になる。 ・UFについて→クライテリアの確認。</p>			

【感想・県内審判員へ伝達したいこと】

今大会はA級になってから初めて参加させていただき関東大会であり、Bブロック1回戦・2回戦の割当をいただきました。1試合目は前半競り合い、終盤点差が離れてしまっても諦めずに最後までプレーしており、2回戦では終盤まで競り合う緊迫したゲームとなりました。

今大会では、今まで県内で取り組んできた判定面とメカニクス、更にはクルーチーフメンタリティを意識し、特にショット時のファウルの見極めを強く意識して臨みました。ショットファウルに関してはレフリーディフェンスをしっかりと行い、リーガルガーディングポジションやシリンダー、影響、仕掛けを確認しながら1つ1つ良く判断・判定をすることが出来ましたがいンサイドでの1対1についてもっと勉強が必要であることを痛感しました。

また、審判会議ではインテグリティについて・3P0について・新ルールについて・ガイドラインについてを講義していただきました。特に今年度より採用されたインテグリティについては感情的にならず、起こった事に対して適切に処理を行う事と不要なTFを無くすためにコミュニケーションを取る事が大切だと分かりました。今後はより高いコミュニケーション能力が必要となってくるため、コミュニケーションのとり方についても勉強して行きたいと思えます。

今大会への参加に際しまして渡邊整ブロック長、講師の先生方、派遣審判員の皆様方、河野審判長始め地元山梨県の皆様方におかれましては多大なるご奉仕をいただき心より感謝申し上げます。また、派遣に際しましてご尽力いただきました渡邊諭県審判長並びに県内審判員の皆様方へも心より御礼申し上げます。今回お話を伺えたこと、経験させていただいた事を糧に、日々精進して参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

松本 祐大

私にとってはA級に昇格させて頂いてから初めての関東大会であり、大会初日に2試合を担当させて頂き、不安な部分もあったのですが、無事に大会を終えることができ良かったと思います。審判会議の中でブロック長からもお話のあったインテグリティに関しては、今年度より実施ということで、HCとレフリーの感覚のギャップなどが無いのか、実際にそのケースがあった時には対応できるだろうかと不安の一つになっていたのですが、大会全体を通してTFを宣することなく終われたことで、自身の今後のレフェリングにおいてもとても参考になる収穫の多い大会となりました。また、高校生の大会で求められていることはやはり「判定力」であると、改めて実感した大会でもありました。今後も判定力を高めることを怠らず、日々精進して参りたいと思えます。

最後に、今大会に派遣して頂くにあたりましてご配慮いただきました渡邊諭審判長をはじめ県内審判員の皆様、大会期間中に大変お世話になりました、山梨県バスケットボール協会の皆様・地元審判員の皆様へ心より感謝申し上げます。派遣報告とさせていただきます。

平山 智章

今回の大会では、1泊審判として参加しました。初日に2試合と2日目にも割当を1試合入れて頂き、3試合担当させていただきました。各試合前に、CCを中心にPGCを行います。その試合をどのように進めていくか、また3人の約束事や確認事項を確認しました。実際のゲーム中に、PGCで確認した場面に遭遇することもあり、PGCで共有しておいて良かったと感じました。どの試合でもクルーで話し合っておくことで、より円滑にゲームを進めることができると改めて感じました。また、EOQでは1試合に4回しかないのに、誰がクロックの管理をするのか、強く意識しました。自分がクロック管理と3Pショットが放たれた場面があり、3ポイントを打ったシグナルは出したもののクロック管理に集中しすぎて、ショットのカウントの合図をセンター一人に任せてしまったので、同様の場面があった場合は改善していきたいと思えました。

このほか、3or2に関してですが、リードからニュートレイルになる際に、後ろから追いかけていく形になりますが、3ポイントライン付近でショットがあった場合、どうしてもつま先を確認できない場面があり、クルーがフラッシュをしてくれたことにより助かった場面がありました。こうした連携が、トラブルの回避にも繋がっていくのだと感じました。

今回の派遣に際しまして、渡邊整ブロック長、渡邊諭県審判長をはじめ、県内の皆様の様々のご配慮、ご協力に感謝いたします。最後に、地元山梨県の皆様には大会期間中大変お世話になりました。心より感謝を申し上げます。報告とさせていただきます。

武井 晋平

県 外 派 遣 審 判 ミ ー テ ィ ン グ 記 録 表

割当日: 令和元年 6月 1日

審判員名	武井 晋平	相手審判	CC岡崎武史(千葉)、U2細田智彦(山梨)
カード	Aブロック 1回戦 正智深谷高校(埼玉) — 成立学園高校(東京)		
<p>◇ ミーティング内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的には、3人が判定していたので良かったと思う。 ・時々、センターからの判定が弱くなる時があったので、センタープライマリーの時はもう少し積極的に判定してほしい。 ・ゲームの終わり際にアンスポーツマンライクファウルのC3に該当するファウルがあったがノーマルファウルで吹いたので、アンスポーツマンライクファウルで取り上げて良かったのではないかと。 <p style="text-align: right;">主任: 白川義一氏</p>			

割当日: 令和元年 6月 1日

審判員名	武井 晋平	相手審判	CC加納康平(神奈川)、U1濱雄介(東京)
カード	Aブロック 2回戦 前橋育英(群馬) — 市立船橋(千葉)		
<p>◇ ミーティング内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹くべき人があきらかなものを吹いていたので、ゲームもスムーズだった。 ・ゲームの序盤に加納さんが片方のチームのプレーヤーにTFを吹いて、そのあと違う場面で熱くなって床に向かって両手を叩きつけるプレーヤーに対して、TFを吹いたので、両チームに平等に吹いているということが伝わったと思う。 ・EOQについても、誰がクロックの管理なのかを把握できていた。 ・トレイルで3ポイントショットがあった場面で、ブラインドから吹いてしまったcallがあり、身体の触れ合いが明確に確認できなかったケースがあったので、位置取りの工夫をしたい。 			

割当日: 令和元年 6月 2日

審判員名	武井 晋平	相手審判	CC渡邊 諭(栃木県)、U1東條輝正(東京都)
カード	法政第二(神奈川) — 土浦日大(茨城)		
<p>◇ ミーティング内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この3名のクルーで吹いているので、大きな問題は起きていない。全体と通してスムーズな試合であった。 ・1Qのゲーム出だし、ポストにボールが入るところの触れ合いについてリードから判定してほしい。 ・リバウンド争いのところで、リバウンドファウルをトレイルから吹いてもらっているが、その前からグラブしていたので、リバウンドの前にリードから笛を入れてほしい。 <p style="text-align: right;">主任: 安西郷史 氏</p>			

県外派遣 審判ミートイング記録表

割当日：令和 元年 6月 1日

審判員名	松本祐大	相手審判	CG：佐田幸一(山梨) U2：山本恵一(山梨)
カード	Bブロック 1回戦 東海大学相模(神奈川) - 市立柏(千葉)		
<p>・インサイドでディフェンスのファウルを取り上げたがまだ決着をつけるには早かった(影響等を見てから判断した方がよかった)</p> <p>・序盤にCからTプライマリーのOFファウルを吹いたケースで取り上げる必要があったか(選手が倒れたので慌てて吹いた様にも見える・プライマリー外)</p> <p>・Cプライマリーでオフェンスのバンプを逃さずコールできたのは良かった</p> <p>・白4番の5つ目のファウルをコールしたが本当に取り上げるべき現象が見極める必要があった</p> <p>・終盤青のファウルをコールしたものについて選手がファウルをしにいていた場面だったので軽くてもすぐ吹くべきだった</p> <p>→抜け際の体へのファウルをコール(そこまで待ってしまうとUFになってしまう→選手の意図をもっと感じる必要がある)</p> <p style="text-align: right;">主任：安西郷史氏</p>			

割当日：令和 元年 6月 1日

審判員名	松本祐大	相手審判	CG：二宮隆二(茨城) U2：塚越洋平(群馬)
カード	Bブロック 2回戦 県立白岡(埼玉) - 県立市川(山梨)		
<p>・序盤から手のファウル・リバウンドファウルと取り上げており、良いテンポセティングが出来ていた</p> <p>・CtoCの時にもっと早くベーシックポジションに入った方が良いケースがあった</p> <p>・Newリードに入る時にクローズダウンポジションに入りがち→まずセットアップポジションに入ったほうが良いケースもある</p> <p>・1試合を通して全体的に良く判定・コールをしていたが、吹かなくても良いものもあった</p> <p style="text-align: right;">主任：山崎敬次郎氏</p>			

県 外 派 遣 審 判 ミ ー テ ィ ン グ 記 録 表

割当日：令和 元年 6月 1日

審判員名	平山 智章	相手審判	CC：中島弘幸（千葉） U2：小沢隆広（山梨）
カード	Bブロック 1回戦 保善高等学校（東京） 対 県立庄和高等学校（埼玉）		
<p>◇ ミーティングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リバウンドについてゲームの入りからもっと整理できるとよかった。後半は要所で笛が入っていた。 ・ボールがリングに当たったがショットクロックがリセットされなかったケースで、マジックタイムを確認していたのはよかった。 ・後半にマージナルなコンタクトをコールしてしまっていたケースがいくつかあった。 ・全体を通して特に大きな問題もなく、ローテーションなどもスムーズにできていたので良かった。 <p style="text-align: right;">《審判主任》 塚越洋平（群馬）</p>			

割当日：令和 元年 6月 1日

審判員名	平山 智章	相手審判	CC：佐田幸一（山梨） U2：箱石拓也（埼玉）
カード	Bブロック 2回戦 県立八千代高等学校（千葉） 対 つくば秀英高等学校（茨城）		
<p>◇ ミーティングの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1試合を通して、プレーヤー・コーチ・ベンチ・T0に気を配りながら運営をしていたところは良かった。 ・ワーニングを与える際に、プレイヤーとベンチに分担して与えていたのでスムーズだった。 ・時折覗き込むようにプレーを見ていることがあるので、しっかりとポジションアジャストした方がよい。 <p style="text-align: right;">《審判主任》 山崎昭一（東京）</p>			

県外派遣報告書 グループミーティング記録表

令和 元年 6月 3日

報告者名	松本祐大
カード	Aブロック 準決勝 市立船橋(千葉)ー実践学園(東京)
審判員	CC: 北島寛臣(埼玉) U1: 梶 崇司(栃木) U2: 河野 仁(山梨)
<p>ミーティング参加者: 山岡忠(神奈川) 山崎敬次郎(千葉) 松本祐大(栃木)</p> <p>小原宏太(埼玉) 本間竜也(神奈川)</p> <p>主任: 小澤 勤(山梨)</p> <p>○テンポセッティングについて 序盤からイリーガルなものをしっかりコールしていた。 ↓ その中でマージナルコンタクト・コール・ノーコールが明確で基準が一貫していた。 ↓ テンポセッティングがうまくいき選手も判定にアジャストしたことから無駄なファウルがなくなりスムーズにゲームが運営できた。 * テンポセッティングの重要性</p> <p>○プライマリーについて ハイポストのプレイでトリプルコールがあった。 ↓ ローテーション中の為見づらいプレーであった。 ↓ コミュニケーションを取りプライマリーレフリーがレポートをできた。 * プライマリーの理解・チェックインチェックアウトの意識・コミュニケーション</p> <p>○ローテーション中のターンオーバー ローテーション中にターンオーバーが起こりダブルリードになったケースがあった。 ↓ ローテーション中のターンオーバー時はNewリート・センター間にてコミュニケーションを取ることが必要 ↓ Newトレイルは上記2人の位置を確認してカバーする。 * コミュニケーションの重要性とローテーション中のターンオーバーについての共通理解</p>	